

パチンコに関する世論・有識者調査

報告書概要版

平成15年3月

財団法人 社会安全研究財団

はじめに

本調査は、平成9年に「遊技業2001年会」が実施した、「パチンコに関する世論調査」の継続調査として位置づけられるものである。この間、パチンコ業界は大きく変容しており、東京都を始めとするカジノ実現に向けての動きなど、業界を揺るがすような新たな問題も起こってきている。

平成9年の前回調査時点では、

- (1) 業界売上げ30兆円の発表と、これを受けてのマスコミ等による射幸性やギャンブル性についてのパチンコ・バッシング、
 - (2) プリペイドカードの変造、不正ロム、パチンコ依存症、幼児の事故などでの業界イメージの悪化、
 - (3) 社会的不適合機の撤去問題などによる業界の混乱、
- といったさまざまな問題が噴出していた。

これに対して、今回の平成14年時点での新たな状況及び問題意識としては、以下のような事情がある。

- (1) パチスロの射幸性とホール営業のギャンブル性が特に強まり、結果として売上げは平成9年当時と変わらず30兆円台近くを維持しているものの、ファンはピーク時から約1千万人減少した。
- (2) 業界のイメージは依然として悪く、例えば①パチンコは不況でも儲けている、②事実上ギャンブルである、③脱税の常連である、④暴力団との癒着がある、⑤地域社会に対して悪弊を及ぼしている、等々といった印象を未だ払拭しきれていない。
- (3) さらにこれに追い打ちをかけるように、自治体によるパチンコ新税構想やカジノ構想が相次いで現れ、業界に壊滅的な影響を及ぼしかねない事態となっている。特にカジノ法制化の議論がもし本格化すれば、パチンコの積年の課題でアキレス腱でもある、「換金問題」が必ず引き合いに出されるからである。

本調査では、以上の新たな問題状況を踏まえ、平成9年度調査との比較や時系列分析の視点に立ち、今後のパチンコ・パチスロ遊技機のあり方、さらにはパチンコ業界のあり方などについて世論の動向を正しく把握し、もって業界の健全な発展に資することとする。

なお、本調査研究は、以下の方々をメンバーとする委員会によって進められた。調査票設計及び分析に関する資料作成は、(財)自由時間デザイン協会が担当した。

山田 紘祥（委員長：文教大学国際学部教授）

博多 威彦（(社)日本遊技関連事業協会・常務理事）

阿部 恭久（都遊協青年部副代表、サンキョー(株)代表取締役）

松本 一男（日本遊技機工業組合・理事／事務局長）

平成15年3月

財団法人 社会安全研究財団

概要版目次

はじめに	
調査の実施要領	1
1. 日本人のギャンブル観	3
(1) ギャンブル型レジャーの好き嫌い	3
(2) 他人がギャンブルをすることについての是非	4
2. パチンコのイメージと関心度	5
(1) パチンコおよび各ギャンブル型レジャーのイメージ比較	5
(2) パチンコに対する関心	6
3. パチンコの参加実態	7
(1) 過去1年のパチンコ経験者の割合とプロフィール	7
(2) パチンコかパチスロか	7
(3) 遊技頻度	8
4. 1回当たりの遊技時間と遊技金額	9
(1) 1回当たりの遊技時間	9
(2) 1回当たりの遊技金額	10
(3) パチンコに使う1回当たり金額の限界	10
5. ファンがパチンコに求めるもの	11
(1) 楽しみの要素の重視度	11
(2) 換金か景品持ち帰りか(換金理由)	12
6. ファンが今後望む台と継続意向	13
(1) 今後どんな台を望むか(遊技時間と投資金額)	13
(2) 今後の継続意向(回数を減らしたい理由)	14
7. 日本人の過去のパチンコ経験と再開意向	15
(1) 過去のパチンコ経験の有無	15
(2) パチンコをやめた時期と理由	16
(3) 再開意向と再開のための条件	17
8. パチンコとパチンコ業界に対するイメージ	18
(1) 現在のパチンコは「ギャンブル型レジャー」か「ギャンブルそのもの」か	18
(2) パチンコおよび業界に対するイメージ	19
9. パチンコの換金問題	20
(1) パチンコの換金問題やその実態についての認知状況	20
(2) 現在の景品買取システムのしくみの是非	21
(3) 換金の是非と換金割合を減らす方策	22
(4) 換金に関する“法と実態の乖離”解消のための方策	23
10. パチンコの今後のあり方について	24
(1) レジャーとしてのパチンコの適正投資金額	24
(2) パチンコが健全なレジャー産業になるための課題	25
(3) パチンコ業界と行政との関係	25
11. パチンコ新税構想に対する意見	26
(1) パチンコに対する新税の是非	26
(2) 新税に賛成、反対の理由	26
12. カジノに対する意見	27
(1) カジノ解禁の是非	27
(2) カジノ解禁に賛成、反対の理由	28
(3) カジノへの来場意向	29
(4) カジノ解禁のパチンコ業界への影響	29

調査の実施要領

(1) 調査の実施要領

■ 実施したアンケート調査の種類と方法等

	方法	対象	サンプル数	調査時期
①一般世論調査	訪問留置調査 多段階無作為抽出法	全国5万人以上 都市部 20才以上男女	3,000人	平成14年10月
②有識者調査	郵送調査 各ジャンルの 名簿から 無作為抽出	公務員 産業人 評論家・学者 マスコミ 文化人等その他	各ジャンル200人 計1,000人	



<有識者のジャンル>

- ・公務員 ……中央官庁、地方自治体の部課長クラス
- ・産業人 ……一部上場企業の部課長クラス
- ・評論家・学者 ……評論家、大学教授・助教授
- ・マスコミ ……新聞、放送、出版社のデスク、編集委員、論説委員
- ・文化人等その他 ……作家、棋士、スポーツ選手など

■ 回収結果

一般調査

	設定数 (人)	有効回収数 (人)	回収率 (%)
一般合計	3,000	2,218	73.9
北海道	129	96	74.4
東北	166	122	73.5
関東	1,163	874	75.2
甲信越・北陸	180	109	60.6
中部	314	249	79.3
近畿	571	427	74.8
中国・四国	227	140	61.7
九州	250	181	72.4

有識者調査

	設定数 (人)	有効回収数 (人)	回収率 (%)
有識者合計	1,000	443	44.3
公務員	200	92	46.0
産業人	200	100	50.0
評論家・学者	200	90	45.0
マスコミ	200	107	53.5
その他文化人	200	54	27.0

*なお、本文中の前回調査とは、平成9年に実施した『パチンコに関する世論・有識者調査』(遊技業2001年会)のことである。

■ 調査協力 分 析：財団法人 自由時間デザイン協会 (旧 余暇開発センター)
実 査：株式会社 新情報センター

■一般回答者のパチンコ/パチスロ参加実態（主要項目）

項目		分類	男女計	性別		
				男性	女性	
パチンコ経験		過去1年経験あり	26.2%	37.1%	15.1%	
		それ以前にはあり	18.3%	26.8%	9.5%	
		それ以前もなし	55.1%	35.9%	74.9%	
活 動 者	遊技機選択		パチンコ派	75.3%	74.5%	76.9%
			パチスロ派	17.5%	18.0%	16.4%
			半々	7.2%	7.4%	6.7%
	今後希望する台		お金を使わず短時間で遊べる台	34.7%	30.9%	44.2%
			お金を使わず長時間遊べる台	53.1%	54.4%	49.7%
			お金をかけても短時間で遊べる台	5.5%	6.2%	3.6%
			お金をかけて長時間遊べる台	5.3%	6.5%	2.4%
	月間頻度（平均）		パチンコ参加者	2.7回	2.8回	2.3回
			パチスロ参加者	3.0回	3.6回	1.5回
	1回当たり遊技時間（平均）		パチンコ参加者	2.5時間	2.6時間	2.3時間
			パチスロ参加者	2.6時間	2.9時間	1.8時間
	1回当たり遊技金額（平均）		パチンコ参加者	11,500円	12,000円	10,200円
			パチスロ参加者	13,100円	14,900円	8,400円
	景品か換金か		景品派	9.6%	9.4%	10.3%
			換金派	79.7%	82.3%	73.3%
			その他	9.8%	8.2%	13.9%

1. 日本人のギャンブル観

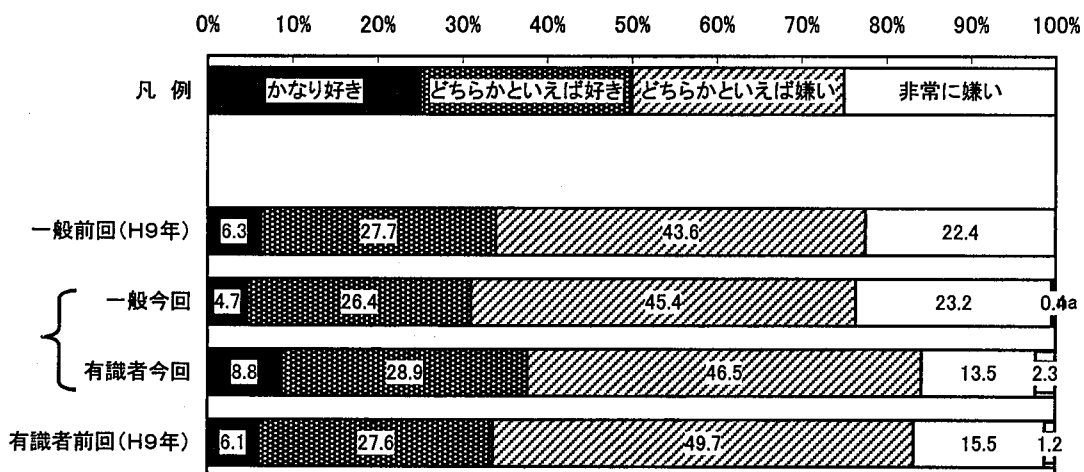
何でも賭けの対象にしてしまうのはイギリス人だが、競馬、競輪など公営5競技、パチンコ、さらには宝くじ、サッカーくじ（トト）と、種類が多いだけでなく、それぞれの売上金額の膨大さからいっても、我が国も世界有数のギャンブル大国である（但し、パチンコは法律上ギャンブルではない）。

そんなに日本人はギャンブル好きなのかというと、実は7割がギャンブル嫌い。「嫌い」というよりは、「ギャンブルはいけないもの」と思っている人が多いのかも知らない。しかし、他人がギャンブルをすることには極めて寛容だ。

（1）ギャンブル型レジャーの好き嫌い（本編41頁参照）

一般	<ul style="list-style-type: none"> ▼日本の7割はギャンブル嫌い ギャンブル型レジャーが「好き」な人は31%、「嫌い」な人は69% ▼女性より男性(44%が好き、女性では18%)が、また若年代ほどギャンブル好き (男20代では51%が好きだが、60才以上で好きな人は36%) ▼とはいえ、若者のギャンブル型レジャー離れも窺える(世代の違いもあるか?) (20代男性のギャンブル好きの人は前回59%→今回51%、20代女性36%→25%)
有識者	<ul style="list-style-type: none"> ▼ギャンブル好きは38%、ギャンブル嫌いが60% ▼比較的ギャンブル好きが多いのはマスコミ(43%)と文化人(41%) ▼前回調査時(平成9年)よりギャンブル型レジャーに興味ある人が多少増えた (前回34%→38%)

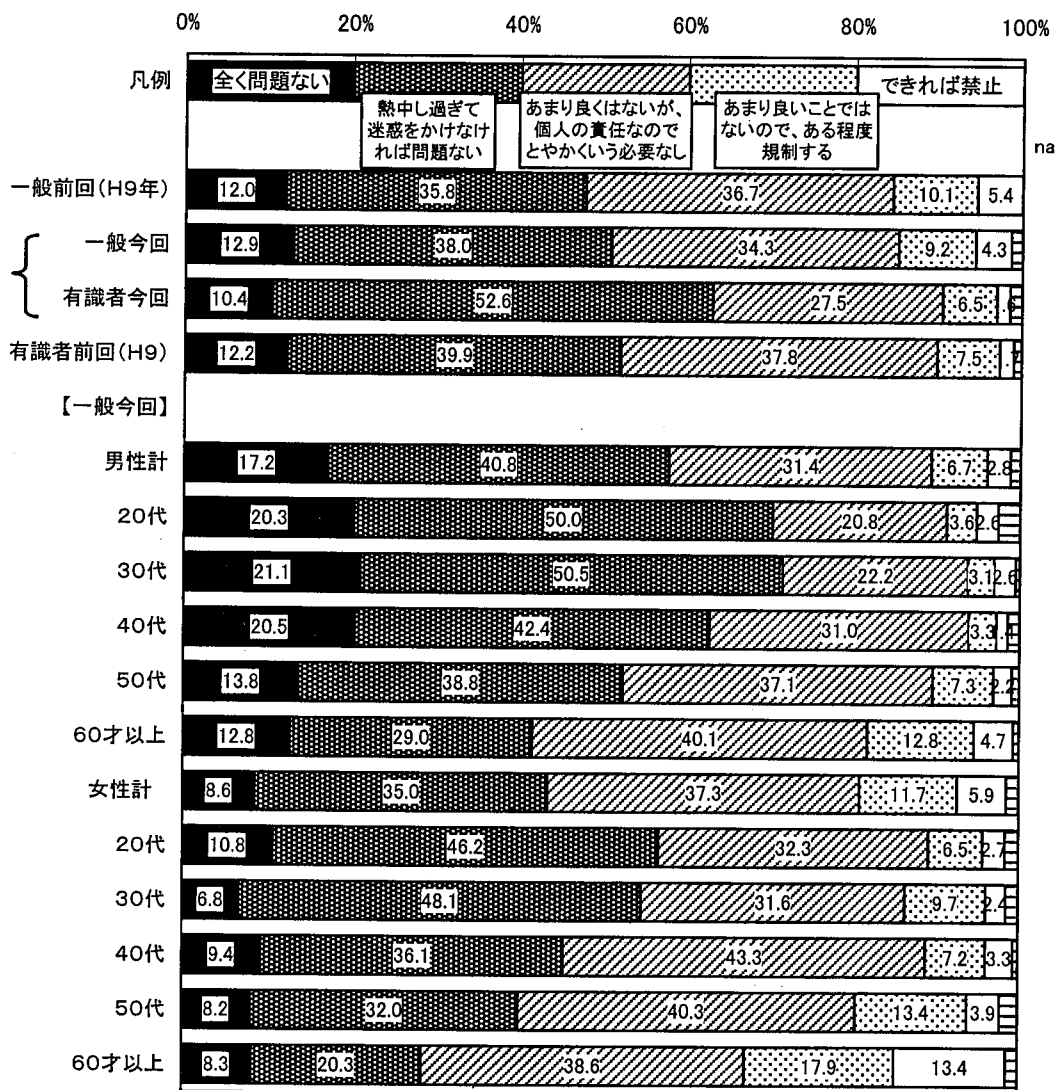
図表-概1 ギャンブル型レジャーの好き嫌い(一般計&有識者計)



(2) 他人がギャンブルをすることについての是非 (本編44頁参照)

一般	<ul style="list-style-type: none"> ▼肯定派が大多数(85%)。他人がギャンブルをやることには意外に寛容 ▼男女とも肯定派が圧倒的多数だが(男性:89%、女性:81%)、男性、特に若い男性(20代:91%)はさらに寛容 ▼5年前の調査時点と回答傾向は変わらず(前回85%→今回85%)
有識者	<ul style="list-style-type: none"> ▼肯定派が91%。「迷惑さえかけなければ問題なし」(53%)が非常に多い ▼評論家・学者(74%)は規制を望む声は他より大きい。条件付き容認意見が増加

図表-概2 他人がギャンブルをすることについての是非(一般計&有識者計)



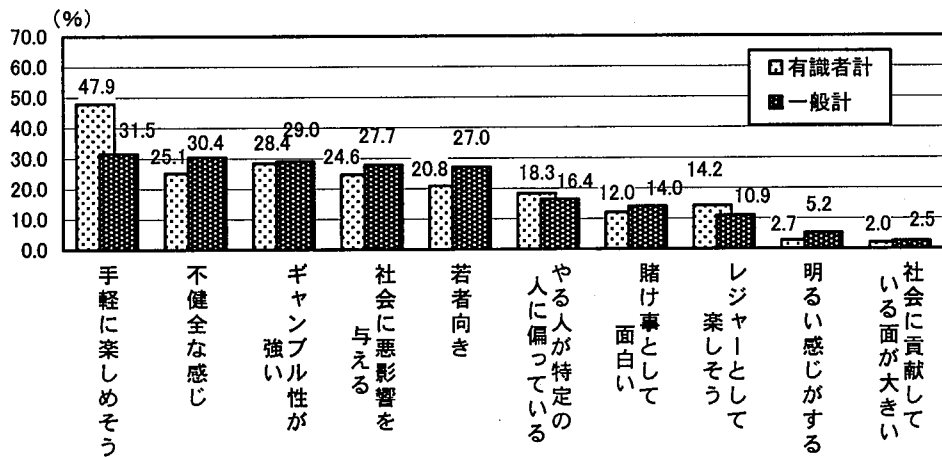
2. パチンコのイメージと関心度

パチンコのイメージは「手軽に楽しめそう」が一位。しかし、「不健全だという感じ」「ギャンブル性が特に強い」「社会に悪影響を与えている」といったマイナスイメージもあいかわらず根深いものがある。

(1) パチンコおよび各ギャンブル型レジャーのイメージ比較（本編47頁参照）

一般	<ul style="list-style-type: none"> ▼パチンコのイメージは「手軽」（一般：32%、有識者：48%）、「不健全」（一般：30%、有識者：25%）、「ギャンブル性」（一般：29%、有識者：28%）、「社会に悪影響」（一般：28%、有識者：25%）、「若者向き」（一般：27%、有識者：21%）。大衆レジャーとして一定の評価をしつつもマイナスイメージも強い ▼パチンコによいイメージを持つ人が比較的多いのは男性若年層 ▼パチンコに悪いイメージを持つ人が多いのは女性、それに男性では高年層 ▼平成9年の前回調査時（のめり込みが社会問題化した直後）からプラス、マイナスイメージ共に減少「特に手軽に楽しめそう」が大きく低下（前回49.0%→今回31.5%）
有識者	<ul style="list-style-type: none"> ▼「手軽に楽しめることは確かだが、マイナス面も多い」が有識者のパチンコ評価 ▼手軽に楽しめそうなイメージは薄れ、賭け事として面白いイメージが増した ▼男性がほとんどの有識者の方が、パチンコにプラスイメージを持つ人は多い

図表-概3 パチンコに対するイメージ（一般計&有識者計）



図表-概4 有識者のジャンル別パチンコに対するイメージ (%)

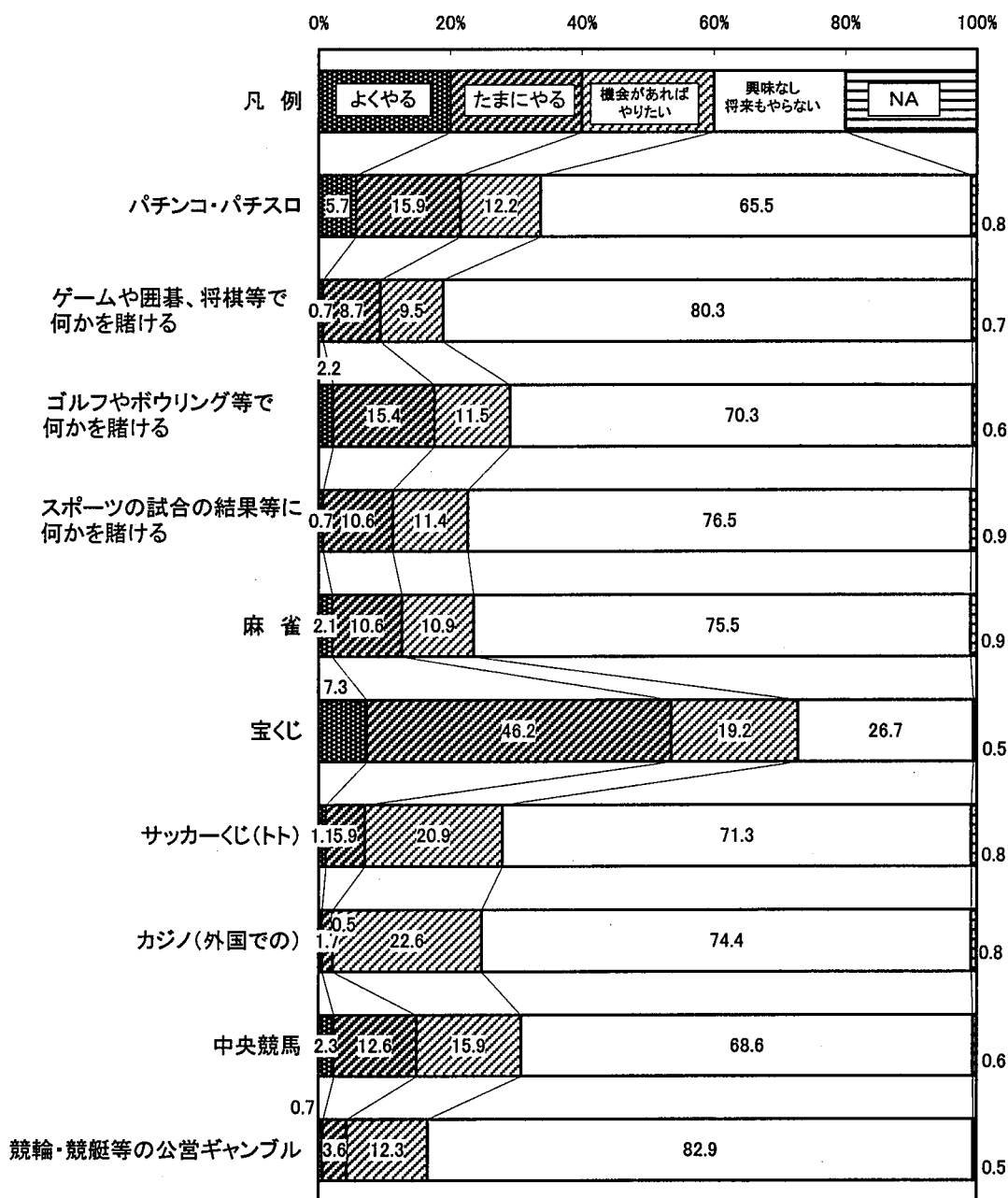
	全体計	公務員	産業人	評論家・ 学者	マスコミ	文化人
手軽に楽しめそう	47.9	47.8	40.0	42.2	56.1	55.6
ギャンブル性が強い	28.4	33.7	30.0	21.1	32.7	20.4
不健全な感じ	25.1	27.2	23.0	26.7	19.6	33.3
社会に悪影響を与えている	24.6	28.3	26.0	22.2	22.4	24.1
若者向き	20.8	23.9	24.0	17.8	21.5	13.0
やる人が偏っている	18.3	19.6	22.0	15.6	16.8	16.7
レジャーとして楽しそう	14.2	15.2	18.0	11.1	16.8	5.6
賭けごととして面白い	12.0	16.3	11.0	12.2	10.3	9.3
明るい感じ	2.7	3.3	3.0	3.3	2.8	0.0
社会に貢献している	2.0	2.2	1.0	3.3	0.9	3.7

*全体計の大きい順。

(2) パチンコに対する関心 (本編56頁参照)

- 一般
- ▼パチンコを「たまにやる、よくやる」人は22%、「機会があればやってみたい」という人は12%、多く(66%)は無関心層
 - ▼日本人が一番よくやっているのは宝くじ(54%)。パチンコは2位
 - ▼意外に、カジノとトト(サッカーくじ)に対する関心が高い
 - ▼パチンコ参加者は男女とも若年層、北海道、東北で比較的多い

図表-概5 ギャンブル型レジャーそれぞれに対する意識と行動(一般)



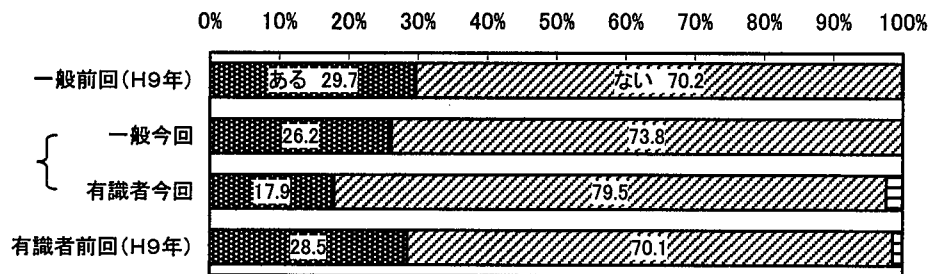
3. パチンコの参加実態

この1年間にパチンコをした人は4人に1人。男性20代に限ると半数に上る。公営ギャンブルの若者離れが進む中、パチンコはいぜん若者の心を捉えているといえよう。パチンコ派とパチスロ派の割合は4対1でパチンコ派が多勢。しかし、最近では若者、ヘビーファンを中心にパチスロへのシフトがうかがえる。

(1) 過去1年のパチンコ経験者の割合とプロフィール (本編63頁参照)

一般	<ul style="list-style-type: none"> ▼過去1年間のパチンコ経験者は4人に1人(26%)。東北(34%)、北海道(33%)に多い ▼男性37%、女性15%が過去1年に経験。男性20代は49%と多い ▼前回調査より経験者が4ポイント減少(前回30%→今回26%)
有識者	<ul style="list-style-type: none"> ▼パチンコ経験者は52%、過去1年間に限っては18% ▼マスコミ(64%)、産業人(59%)に経験者が多く、評論家・学者(35%)は少ない ▼「有識者」にかつてのファンが多い

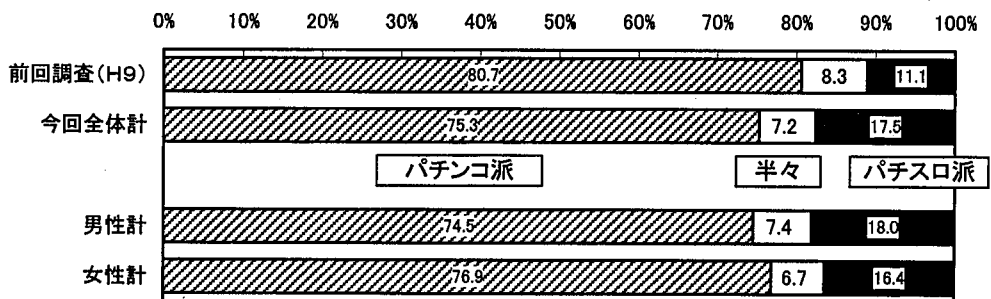
図表-概6 過去1年間のパチンコ経験の有無



(2) パチンコかパチスロか (過去1年間の経験者について、一般のみ) (本編69頁参照)

一般	<ul style="list-style-type: none"> ▼する人の75%はパチンコ派、パチスロ派は18%。両方同程度が8% ▼パチスロ派は比較的甲信越・北陸(30%)、中・四国(29%)に多い ▼男女とも若年層ほどパチスロ派。ヘビーファンにも相対的にパチスロ派が多い ▼この5年間でパチスロファンが増加している(前回11%→今回18%)
----	---

図表-概7 パチンコ派かパチスロ派か(一般の性別)

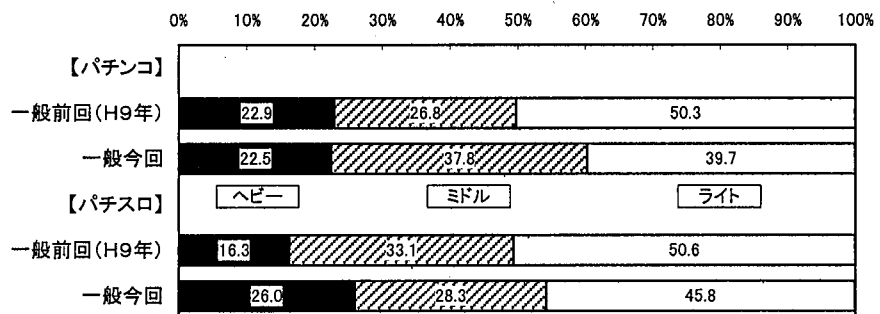


* 過去1年間にパチンコ・パチスロをしたことのある人について

(3) 遊技頻度 (本編72頁参照)

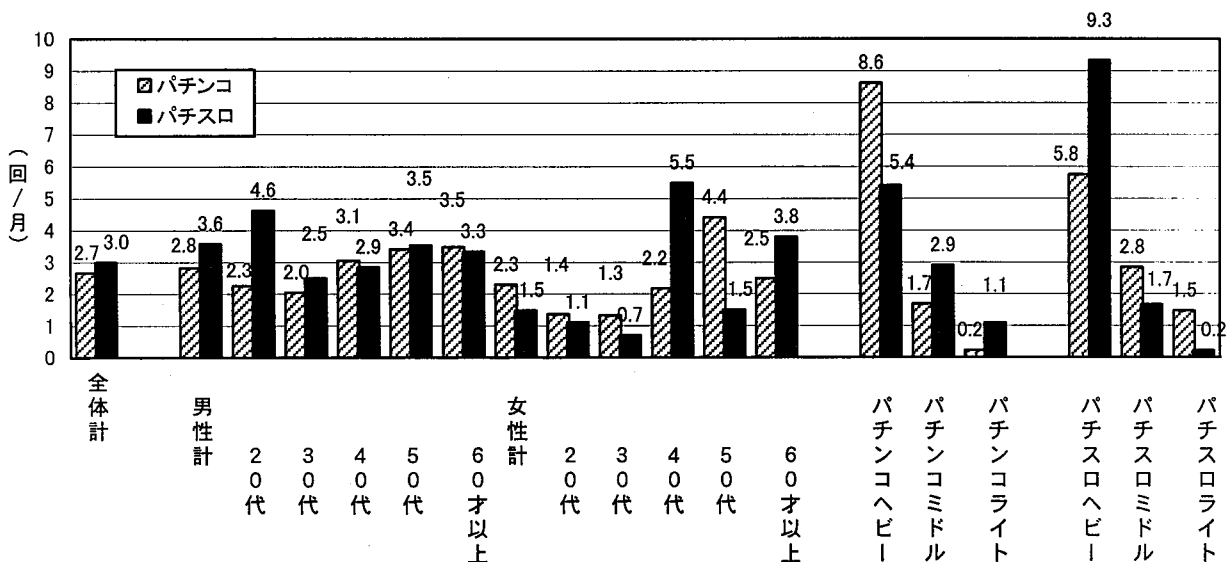
パチンコ	<p>▼平均頻度は月2.7回。高頻度は少なく、中・低頻度に分散(ホール内とは異なる)</p> <p>▼週1～2回以上のヘビーファンが23%、ミドルファンは38%、ライトファンは40%</p> <p>▼ヘビーファンは月平均8.6回、ミドルファン1.7回、ライトファン0.2回 頻度の男女差はない(ヘビー、ミドル、ライトの定義は下図表の注を参照)</p> <p>▼平均頻度は前回調査よりヘビーファンは減少(前回9.1回→今回8.6回) ミドルファンは若干減少(前回1.8回→今回1.7回) ライトファンは変わらず(前回0.2回→今回0.2回)</p>
パチスロ	<p>▼平均頻度は月3.0回、パチンコより多い。ヘビー26%、ミドル28%、ライト46%</p> <p>▼ヘビーファン月平均9.3回、ミドルファン1.7回、ライトファン0.2回</p> <p>▼平均頻度は前回の2.0回から3.0回にアップ。徐々にパチスロへ傾斜</p> <p>▼パチンコファンは頻度が減り、パチスロファンの頻度は増えた</p>

図表-概8 パチンコ/パチスロのファン度(頻度による)



(注1) 「パチンコ/パチスロはしなかった」、「無回答」は除いて集計
(注2) ヘビー: 「ほとんど毎日」、「週に3～4回」、「週に1～2回」
ミドル: 「月に2～3回」、「月に1回」、
ライト: 「2～3ヶ月に1回」、「半年に1回」、「年に1回」

図表-概9 パチンコ/パチスロの月間平均頻度(過去1年間)



4. 1回当たりの遊技時間と遊技金額

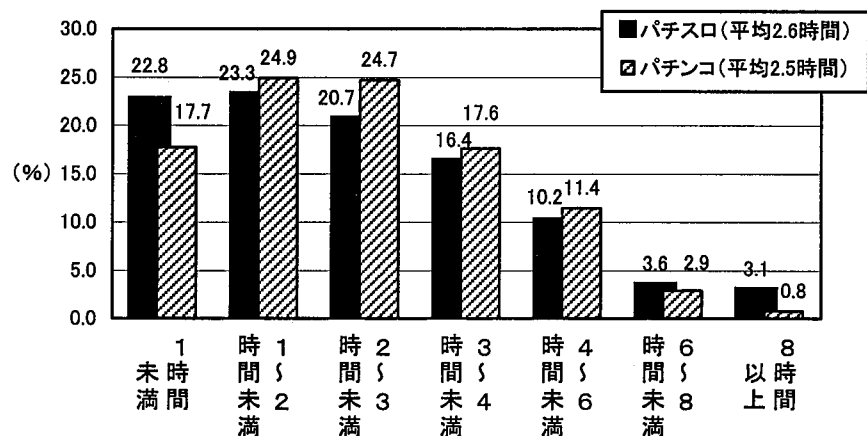
1回当たりの遊技時間と遊技金額では、パチスロの増加が目立ち、パチスロのギャンブル性のアップを反映した結果となった。一方、パチンコ・パチスロに投資してもよいとする平均限界金額は1万円程度。

この結果は年に数回しかしないライトファンも、毎日のようにしているヘビーファンも含めたパチンコファン全体を表す数字である。ヘビーファンが多数を占めるホール内における調査では、本調査結果よりかなり大きな数字になると想定される。

(1) 1回当たりの遊技時間 (本編77頁参照)

パチンコ	<ul style="list-style-type: none"> ▼1回当たり平均遊技時間は2.5時間、1～3時間が中心だが、3時間以上も31%いる ▼ヘビーファン3.5時間、ミドルファン2.9時間、ライトファン1.7時間 高頻度の人ほど時間も長い ▼遊技時間は前回調査とあまり変わらない (前回2.4時間→今回2.5時間)
パチスロ	<ul style="list-style-type: none"> ▼平均遊技時間は2.6時間。3時間以上は33%。パチンコより全体に長時間 ▼ヘビーファン3.9時間、ミドルファン2.9時間、ライトファン1.7時間 やはり高頻度は長時間遊ぶ ▼パチスロの平均遊技時間は1.8時間から2.6時間へと大幅アップ ▼パチンコは男女年代問わず2時間以上遊ぶが、パチスロは男性は長く女性は短い (男性：2.9時間、女性：1.8時間)

図表-概10 パチンコ/パチスロの1回当たり平均遊技時間(過去1年間、一般計)

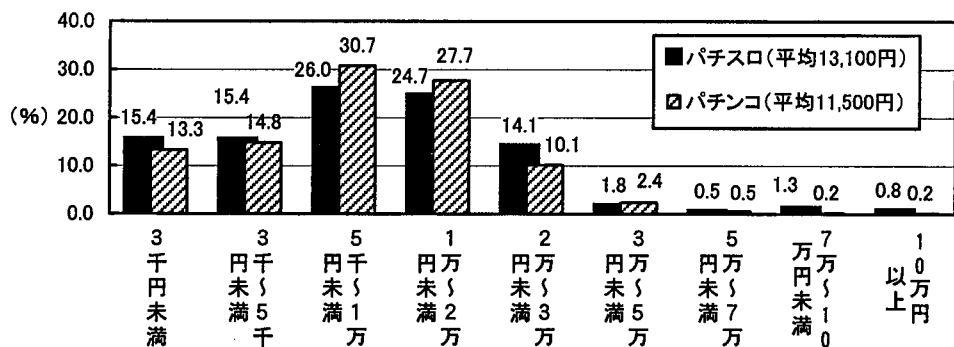


*「パチンコ・パチスロはしなかった」、無回答は除いて集計。

(2) 1回当たりの遊技金額 (本編82頁参照)

パチンコ	<ul style="list-style-type: none"> ▼平均1万1,500円。5千円～2万円が中心、累計1万円未満で58%をカバー ▼本調査は参加者全体が対象。ヘビーファンの多いホール内調査ならもっと高額 ▼男性平均12,000円、女性10,200円、男性が多いがそれほど大きな差はない ▼ヘビーファン1万7,900円、ミドルファン1万2,300円、ライトファン7,000円 ▼前回に比べ1,700円アップ。特に女性のアップが大きい(前回6,700円→今回1万200円)
パチスロ	<ul style="list-style-type: none"> ▼平均1万3,100円でパチンコより高額。累計1万円未満で59%をカバー ▼男女差が特に大きい(男性1万4,900円、女性8,400円) ▼ヘビー2万3,400円、ライト7,500円。ヘビーファンとミドル・ライトとの差が大きい ▼前回から約2倍に増加(前回7,100円→今回1万3,100円)。パチスロのギャンブル性がアップ

図表-概11 パチンコ/パチスロの1回あたり平均遊技金額(過去1年間、一般計)

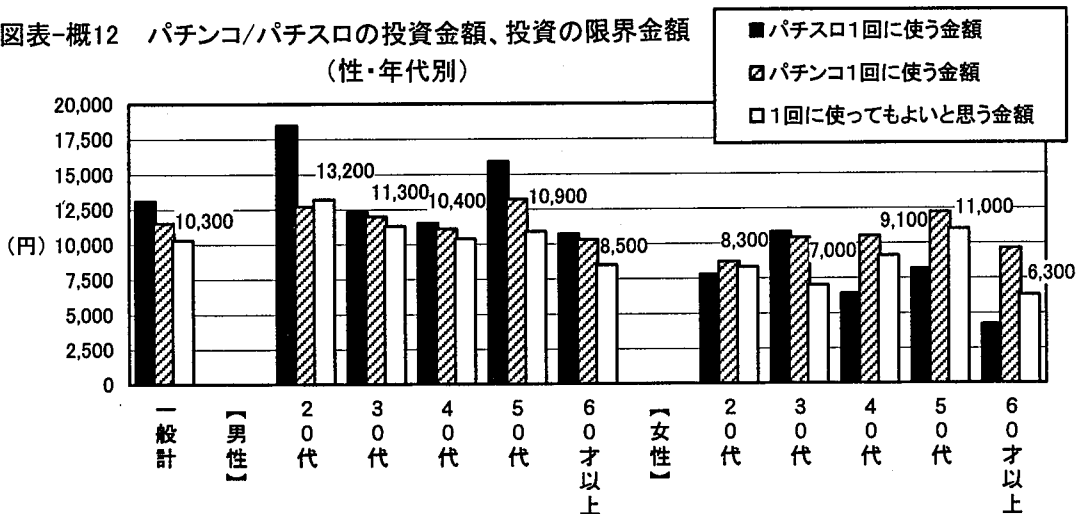


*「パチンコ(パチスロ)をしなかった」、「無回答」を除いて集計。

(3) パチンコに使う1回あたり金額の限界 (本編94頁参照)

一般	<ul style="list-style-type: none"> ▼投資の限界金額は平均1万300円。実際の投資金額(1万1,500円)よりやや低い程度 ▼ファンの3分の1(34%)は5千円、58%までが1万円が限界と考えている ▼男性(1万1,000円)、ヘビーファン(パチスロヘビー:2万300円、パチンコヘビー:1万5,000円)、パチスロ派(1万3,700円)の限界金額は高い
----	---

図表-概12 パチンコ/パチスロの投資金額、投資の限界金額 (性・年代別)



*数字は1回に使ってもよいと思う金額